

毎月第1・3日曜はお寺でHAVE A FUN!!

10時半からのキッズサービスに引き続き
楽しいクラスやアクティビティを通して
アミダさまのお心を学びましょう

☆クラス予定表☆

5月17日(日)

ヨガ

6月7日(日)

6月14日(日)

ピクニック

お子さんをお持ちの方はぜひご参加下さい

レットークダルマ

「信こそはまことに人の善き伴侶であり、この世の旅の糧であり、この上ない富である。

信は人の心を豊かにし、貪りの思いをなくし、おごる心を取り去って、へりくだり敬うことを教える。こうして、智慧は輝き、行いは明らかに、困難に破れず、外界にとらわれず、誘惑に負けない、強い力が与えられる。、、、」

和英対照仏教聖典 p 355

もしこれや他の興味のあるトピックでディスカッションされたければ私達のグループに参加してください。英語法要の後、メザニーにて。ソーシャルホールのコーヒーをもってご参加下さい。

合掌 ミニスターズアシスタント
デニス・マドコロ



Let's 盆踊り

盆踊りレッスンの時期がやってきました!!

7月11日の盆踊りにおけてみんなで練習して、一緒にいい汗をかきませんか!?

だれが?…誰でもご参加いただけます
まったく初めての方でも大丈夫!

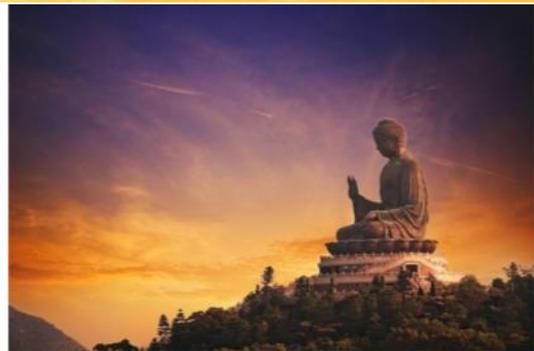
いつ?…4月21日～7月9日までの
毎週火 午後8時～9時半
毎週金 午後7時30分～9時

どこで?…地下ホール

どんな踊り?…全国のさまざまな盆踊り

費用は?…1回大人50セント
子供(18歳以下)25セント

Vesak: Buddha's Birthday Celebration "Blessings on the City, the Nation and the World."



今年もGTA内の20以上のお寺と合同で、おしゃカ様の生誕・成道・入滅を祝う、仏教のお祭りであるウエサックを開催します

日時…5月24日(日)パレード 午後2時
プログラム 午後3時

場所…ミササガ セレブレーションスクエア

参加費…無料

ボランティア募集中…セットアップなどの手伝いをしてくれる方、ヤンコ先生 tbc@tbc.on.caまで連絡下さい

宗祖降誕会

5月17日(日)
午前11時15分より

宗祖親鸞聖人は平安時代末の、承安3年(1173年)5月21日に京都の南に位置する日野の里(現在の京都市醍醐)にてお生まれになりました。

幼名を松若丸と名付けられたと伝えられています。

親鸞聖人のご生誕を
皆さんと一緒に
お祝いいたしましょう



初参式のご案内

ご家族やご親戚のなかにここ数年のうちに生まれられたお子さん・お孫さんはおられませんか？

初参式とは人として命を授かった事へのお礼とご報告をお寺の阿弥陀様の前で行う大切なお式です

今年は五月十七日(日)午前十一時より行います。お子さんの手形(もしくは足形)を入れた色紙と記念品を差し上げますので、ぜひともご参加下さい。お申し込みは五月十日(日)までにお寺の事務所までお尋ね下さい。

第15回世界仏教婦人会大会



2015・WORLD
BUDDHIST
WOMEN'S
CONVENTION

5月30日、31日、第15回世界仏教婦人会大会が浄土真宗本願寺カナダ仏教婦人会連盟の担当により、カナダ、アルバータ州、カルガリー市にて開催されます。

本大会は年齢、国籍、人種を越えて、国際規模で浄土真宗婦人会の交流を深める事を目的とした大会です。2000名を越える北米・日本・南米の仏教徒が一緒になって、経験を共有し合い、ともに学び、仏様のみ教えを聴聞し、お念仏の輪を広げる素晴らしい機会です。テーマは「いだかれて ともにつながる わたしのいのち」。

英語基調講演
宇宿 パトリシア師



日本語基調講演
やなせ なな師



大会ウェブサイトをご覧ください
www.wbwconvention.com

メディテーションクラス

5月11日 (月)

5月25日 (月)

午後7時～午後8時

上記の日程で今月もメディテーションクラスを行います。

このメディテーションクラスでは、本堂に入って礼拝、合掌し、鐘の音を聞き、お経を唱え、南無阿弥陀仏を称えながら本堂を歩きます。そして静かに座って心を落ち着けます。騒がしく忙しい日常から解放され、深く心を落ち着け、心の平安を得る実践を体験してみてください。

2015年お盆ゲストスピーカー



菅原祐軌師

島根県出身。両親ともお寺の出身である。1996年高校1年生のとき得度する。そして高校2年生の時、アメリカに留学。帰国後、立命館大学で政治学を専攻する。在学中、母親が突然、他界する。2002年教師を取得。2009年開教使の研修であるIMOPを受講。2011年7月からアメリカ、カリフォルニア州のフローリン仏教会にてご活躍中。趣味はギターを弾くこと。お寺のメンバーは毎月、彼の演奏を楽しんでいる。奥さん南海子さんとの間に2歳の葵ちゃんがいる。

今月の法語

釈迦・弥陀は慈悲の父母

種々に善巧方便し

われらが無上の信心を

発起せしめたまひけり

高僧和讃(七四) 善導讃

敬 弔

次の方が御往生されました

生前のおもかげを偲び、謹んで敬弔の意を表します

高橋 英夫様 九十五歳 四月五日往生

中村 正信様 百二歳 四月二十六日往生

中川 愛子様 八十七歳 四月二十七日往生



佛心

二〇一五年五月号

浄土真宗

トロント本願寺

生きるこの問い



今年、第二次世界大戦、ナチ収容所開放から七十周年だということ。収容所体験のある方も大変ご高齢になられております。歴史は遠慮なく流れて愚かしい戦争の足跡を消していきます。そして、今、世界のあちらこちらで、また爆音が鳴り響いていることは、悲しいことです。

皆様はヴィクトール・F・フランクルの「夜と霧」という本を読まれたことがありませんか？フランクルはウィーンに生まれたユダヤ人です。精神医学を学び、医師であり心理学者でした。強制収容所での体験を通して知り得た根源的な人間性をこの本において著しました。比類のない恐るべき体験を通して述べられた内容は、私たちが生きるということは何なのか、お釈迦様のみ教えにも通じた素晴らしいものであると確信します。フランクルのここで考察した生きる意味は、生き延びる見込みの皆無の状況下、死をも含む全体としての生きるこの意味であり苦しむことと死ぬことの意味にも裏付けされたものでした。私たちはこういう知恵のある人の言葉を大切に脳裏に留めたいものです。

彼は、目の前で「生きていくことに何も期待が持てない」と崩れ去っていった多くの人々を見ました。人々は過酷な環境下、希望をなくし自分の生存そのものを否定していったのです。しかしそんな中、収容所のおぞましい生活、肉体的限界を超えた苦しみの中、ほんの一握りでした。が絶望の渦に巻き込まれず自らの生きる存在意義を見出せた人々がいたそうです。

そして彼らは、逆に、通常の生活では見出せ得なかったであろう人間の未聞の高みに達した思考を見出し出したのです。それは一体どういう人々だったのでしょうか。

いつ収容所の生活が終わるか分からない行き詰まった状況の中、どんな人間が強かったのでしょうか。それは身体が頑強か否かという単純な答えではありません。彼は本当の意味で人間が崩壊するのは身体からでは

なく精神からであると指摘しています。

多くの人は収容所から出られる日を希望とし毎日の苦悩に耐えていました。しかしそう考えていた人は、その希望を打ち砕かれると生きる意欲を失くし、たとえ体力がまだ残っていてもすべてを放棄して動かなくなり、やがて死んでしまったそうです。

ニーチェの格言に「なぜ生きるかを知っているものはどの様に生きることにも耐える」とありますが、この言葉の意味する所は、まことに、彼の体験を言い当てたものでした。フランクルは言いました。人生の意味を問う時、私たちは自らの考えを一八〇度方向転換する必要があるのだと一いつまり人生から（生きることから）何かを期待するのではなく逆に自身の人生からの期待に応えようとする。この考え方の方向転換です。言うなれば生きていくことは、個々に課せられた生きるこの問いに正しく答える義務を引き受けることであるということ。です。

収容所の中においても収容所から出られない状況を受け容れて、そこで「自分の人生の目的を果たそう、自分に出来ることをする、他の人の幸せのために何かしよう」とした人々、そういう人こそ、強い精神力が持て、人生の本当の喜びに出会うことのできた人々であったと彼は伝えていきます。

現代に生きる私達も同じことが言えるでしょう。どんな困難な状況下でも与えられた人生の条件に忠じて自分の人生の意味を探っていくことが大切なのです。他の人と比較することはできません。宇宙に私という人間は一人しかいないのです。人生は百人百様、この与えられた人生の条件に忠え、各々の求められている意味を見つける、私の人生の問いに答えられるのは私だけなのです。

「なぜこの人生なのか、私の歩んできた人生の意味、目的はなんであるか」
人生の生きる意味を問うのではなく、逆に人生の生きるこの問いに正しく答えを出すことに他ならないのです。

私達が抱える現実や条件にはすべて意味があり、各々の人生の中で答えるべきものを見出すところに人生の真価と本当の喜びがあるのでしよう。そしてこの様な問いに対する答えを見つけた道が仏教の教えの中に導かれていると思えます。ナチスの強制収容所の中で深い祈りを神に捧げていた人々がいたそうです。私達を生かし導いている、見えないけれど大きな働きに語りかけることが私の人生からの問いかけに答える道なのです。

合掌

駐在開教使 遠藤竜平